

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成28年2月4日 (2016.2.4)

【公表番号】特表2011-516422(P2011-516422A)

【公表日】平成23年5月26日 (2011.5.26)

【年通号数】公開・登録公報2011-021

【出願番号】特願2011-502090(P2011-502090)

【国際特許分類】

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 P 11/00 (2006.01)

A 6 1 P 11/06 (2006.01)

A 6 1 P 37/08 (2006.01)

A 6 1 P 21/00 (2006.01)

A 6 1 P 7/10 (2006.01)

A 6 1 P 7/00 (2006.01)

A 6 1 P 17/00 (2006.01)

A 6 1 P 1/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/573 (2006.01)

A 6 1 P 9/00 (2006.01)

A 6 1 P 33/10 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 P 11/00

A 6 1 P 11/06

A 6 1 P 37/08

A 6 1 P 21/00

A 6 1 P 7/10

A 6 1 P 7/00

A 6 1 P 17/00

A 6 1 P 1/00

A 6 1 K 31/573

A 6 1 P 9/00

A 6 1 P 33/10

【誤訳訂正書】

【提出日】平成27年12月11日 (2015.12.11)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 4 2 】

もう 1 つの態様では、好酸球性気管支炎のヒトを処置するための方法が提供され、そこでは前記少なくとも 1 種類の抗 I L - 5 抗体を含んでなる組成物は、第 1 の抗 I L - 5 抗体および第 2 の抗 I L - 5 抗体を含んでなる。少なくとも 1 種類の抗 I L - 5 抗体を含んでなる組成物は、ステロイドと併用投与可能である。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0043】

本発明ではまた、好酸球性気管支炎を患うヒトにおいて、好酸球を減少させるための方法も提供され、その方法は、第1の抗IL-5抗体および第2の抗IL-5抗体を含んでなる組成物を投与することを含んでなる。本明細書では、少なくとも1種類の抗IL-5抗体がステロイドとともに併用投与される方法も提供される。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

少なくとも1種の中和型ヒト化抗ヒトIL-5抗体を含んでなる、ステロイドと併用投与して喘息を患う被験体における好酸球性気管支炎の処置に用いるための医薬組成物であって、ステロイドが、プレドニゾンであり、プレドニゾンの開始用量が5.0～7.5 mgであり、プレドニゾンの開始用量が処置後少なくとも約90%減量される、医薬組成物。

【請求項2】

前記少なくとも1種の中和型ヒト化抗ヒトIL-5抗体が、配列番号19を含んでなる重鎖を含んでなる、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項3】

前記少なくとも1種の中和型ヒト化抗ヒトIL-5抗体が、配列番号21を含んでなる軽鎖を含んでなる、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項4】

前記少なくとも1種の中和型ヒト化抗ヒトIL-5抗体が、配列番号19を含んでなる重鎖と配列番号21を含んでなる軽鎖とを含んでなる、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項5】

前記被験体が、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、非アレルギー性鼻炎、慢性好酸球性肺炎、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症、セリアック病、チャージ・シュトラウス症候群、好酸球性筋肉痛症候群、過好酸球性症候群、偶発性血管性浮腫を含む浮腫反応、蠕虫感染症、寄生虫感染および/または寄生虫感染の処置に関連する好酸球増加症、オンスセルカ皮膚炎、好酸球性食道炎、好酸球性胃炎、好酸球性胃腸炎、好酸球性腸炎、好酸球性大腸炎、鼻マイクローポリプ症、鼻ポリプ症、閉塞性睡眠時無呼吸、クローン病、硬皮症および心内膜心筋線維症からなる群から選択される過剰な好酸球産生に関連する少なくとも1つの付加的障害を患っている、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項6】

静脈内に投与するための、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項7】

750 mgの用量で投与するための、請求項6に記載の医薬組成物。

【請求項8】

前記静脈用量を、30分以上かけて静脈内に投与するための、請求項6に記載の医薬組成物。

【請求項9】

少なくとも1回用量を受容した後、好酸球性気管支炎の増悪を統計学的に有意に軽減するための、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項10】

少なくとも1回投与した後に好酸球レベルを正常範囲内まで減少させるための、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項 1 1】

最終投与後前記好酸球レベルを少なくとも 8 週間、正常範囲内にとどめるための、請求項 1 0 に記載の医薬組成物。

【請求項 1 2】

第 1 の中和型ヒト化抗ヒト I L - 5 抗体および第 2 の中和型ヒト化抗ヒト I L - 5 抗体を含んでなる、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 1 3】

前記好酸球レベルを、血液および / または痰において減少させるための、請求項 1 0 に記載の医薬組成物。

【請求項 1 4】

少なくとも 1 種の中和型ヒト化抗ヒト I L - 5 抗体とプレドニゾンを含んでなる、喘息を患う被験体における好酸球性気管支炎の処置に用いるための組合せ医薬であって、プレドニゾンの開始用量が 5 . 0 ~ 7 . 5 m g であり、プレドニゾンの開始用量が処置後少なくとも約 9 0 % 減量される、組合せ医薬。